

国立研究開発法人土木研究所 専門研究員公募

職 名：橋梁構造研究グループ 専門研究員

募集人員：1名（勤務地：茨城県つくば市南原1-6）

任用期間：令和4年4月1日以降できるだけ早い時期～令和7年3月31日*
（契約は年度更新となる）

*博士の学位保有者もしくは研究期間中に博士の学位を取得した者については、
2年間契約期間を延長する場合がある。

職務条件および待遇：

（令和3年11月現在）

給 与：学位、経験年数等に応じて下記の範囲内で支給

博士：日額 15,780 円～18,900 円

修士：日額 12,600 円～17,970 円

（常勤職員給与が改定された場合、常勤職員給与との均衡から増額又は減額する場合があります）

終業時間：8:30～17:15 休憩時間 12:00～13:00（フレックス取得可）

休 日：土日・祝日および年末年始（12/29～1/3）

休暇制度：1) 年次有給休暇：採用日に10日付与

（ただし、採用後3ヶ月は3日、6ヶ月以内は5日の範囲まで）

2) 特別有給休暇 忌引きなど

3) 無給休暇 病気休暇など

諸 手 当：時間外勤務手当、休日手当、期末手当（6月、12月）、通勤手当、住居手当等

社会保険等：健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険

試用期間：採用開始日から1ヶ月

詳細は URL 参照 (<https://www.pwri.go.jp/jpn/employ/saiyou/index.html#07>)

職務内容：

既設橋の耐震補強については、過去の震災による落橋事例等を踏まえ、橋脚の耐震補強と桁の落下防止対策が優先的に実施されてきたが、今後は道路橋基礎についても耐震性能を適切に評価し、必要に応じて補強していくことが求められる。このため、被災事例のある杭基礎等を対象として、既設橋基礎の耐震性能評価及び耐震補強設計に用いる解析モデル等を提案するため、既設橋基礎の耐震性に関する実験や解析を行う。

被災事例のある杭基礎の補強には、一般的に剛構造の増し杭工法が用いられる。しかし、新旧杭の地盤反力の分担や、既設・新設部の接合部の挙動等が明らかではなく、補強設計手法が未確立となっている。そこで、模型実験やFEM解析を実施し、補強した基礎の挙動や補強効果を検証し、さらにフレーム解析等を実施して設計時に用いる地盤等の評価手法を検討する。さらに、増し杭工法等の構造系補強工法だけでなく、セメント固化等の地盤改良系工法についても要求性能に対する評価手法等を検討する。

応募条件：

- 1) 修士以上の学位を有するもの。特に、博士の学位を有することが望ましい。
 - 2) 構造工学または地盤工学に関する研究実績あるいは実務経験を有するもの。特に、構造物基礎に関する研究実績を有することが望ましい。
 - 3) 2)に関する分野の査読付論文を2編以上公表していること。日本語での論文1編以上を含むと有利である。
 - 4) 業務遂行に必要な日本語能力を有すること。日本語での読解・作文能力も有していると有利である。
- 上記 1)～4)を満たすことを条件とする。

応募締切：令和4年1月31日（月）17時 必着

選考方法：

書類審査（一次）および面接（二次）に基づき、知識、実務経験、過去の研究実績、研究意欲等を総合的に勘案して、最も適任であると考えられる者を選考する。

なお面接（二次）は令和4年2月頃を予定している。

提出書類： 書類は全てA4版とし、(1)以外の様式は自由。郵送もしくは持参にて提出すること。なお、郵送の場合、封筒に「専門研究員応募書類在中」と明記のうえ、書留郵便すること。

- (1) 履歴書（弊所指定、ホームページに掲載）
- (2) 業績書（これまでの研究履歴の内容）
- (3) 研究論文リスト
- (4) 研究論文別刷り（査読付き論文2編以上）
- (5) 学位取得証明書
- (6) 成績証明書（大学院）
- (7) これまでの研究履歴の概要、着任後の研究計画、業務に関する抱負
（日本語で600～1,000文字以内でA4版1枚）

なお、応募書類は返却しません。

書類提出先・問い合わせ先：

〒305-8516 茨城県つくば市南原1番地6
国立研究開発法人土木研究所 構造物メンテナンス研究センター
橋梁構造研究グループ 主任研究員 堀内智司 宛
TEL: 029-879-6773
FAX: 029-872-6739
E-mail: horiuchi-s573bt@pwri.go.jp

以上